



第 2 章

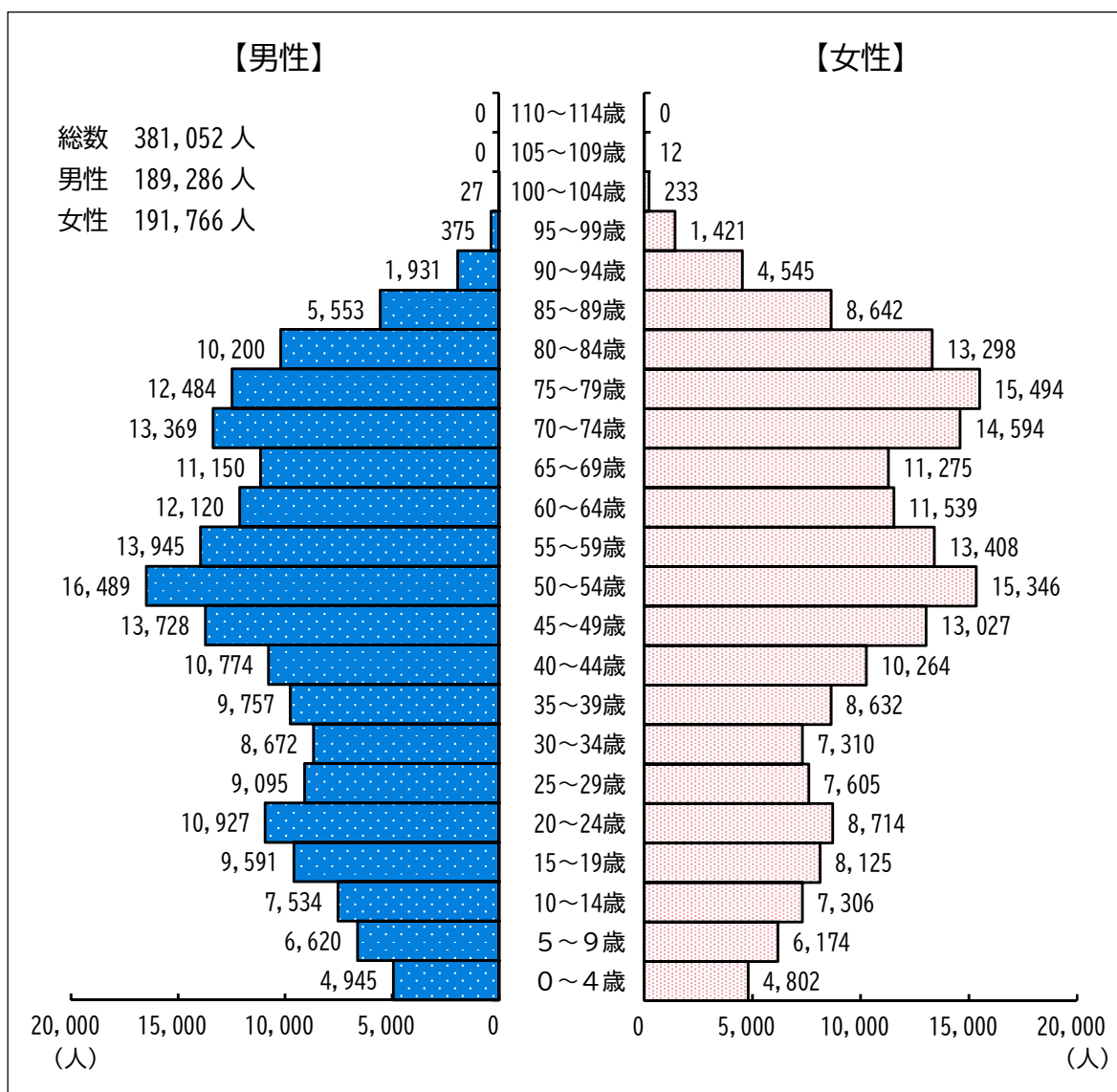
横須賀市のがんを取り巻く現状

1 国・県・市の人口

(1) 横須賀市の人口

本市の人口は、横須賀市住民基本台帳登録人口令和6年（2024年）4月1日時点において、381,052人（男性189,286人、女性191,766人）です。団塊世代（S22年～S24年生まれ）と団塊ジュニア世代（S46～S49年生まれ）の年代が多くなっており、その後の人口は減少傾向となっています。

住民基本台帳登録人口（5歳階級別）

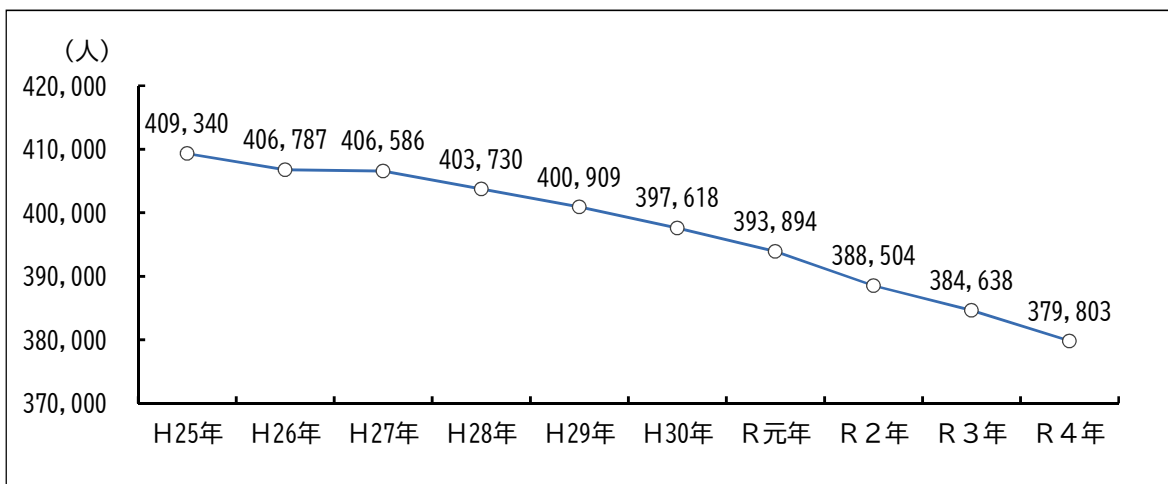


資料：横須賀市住民基本台帳登録人口より作成（令和6年4月1日現在）

(2) 市の人口増減と傾向

横須賀市の人口は、減少傾向にあり、これまでの出生や移動の傾向が続くと仮定した将来推計人口は、令和27年（2045年）には20万台後半になることが予測されています。

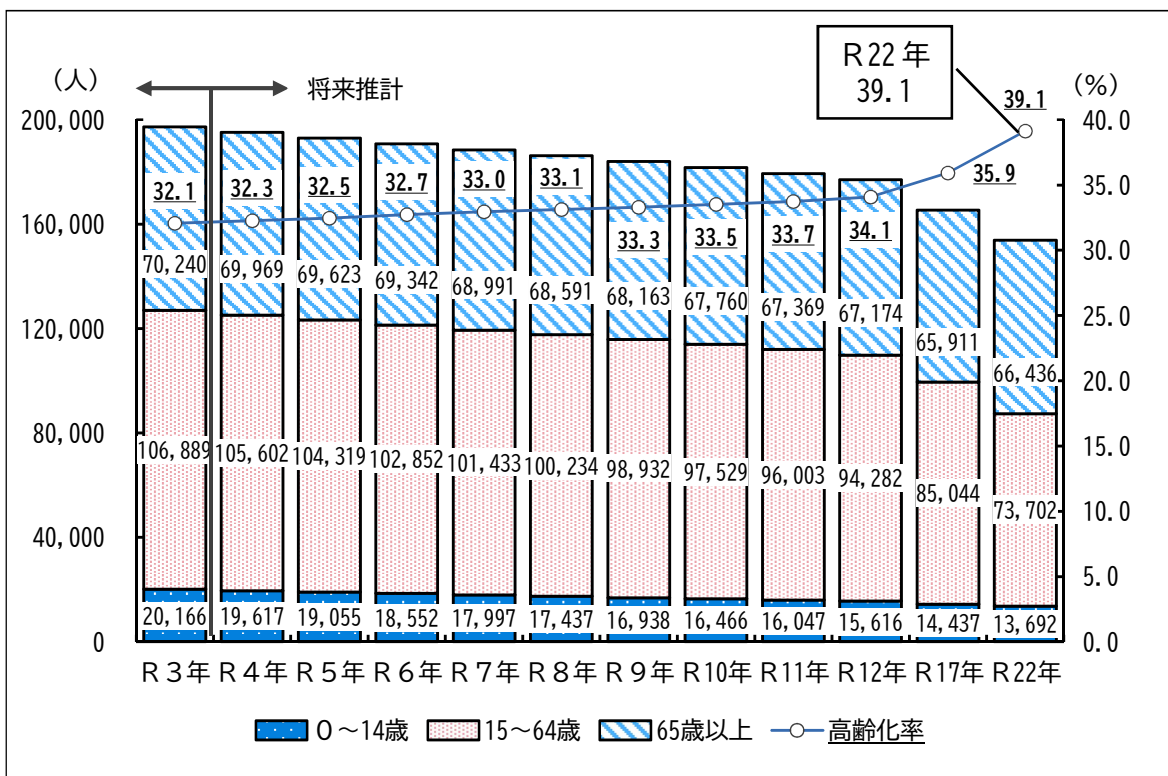
《横須賀市》人口推移



資料：横須賀市民生局健康部「衛生年報」より作成

年少人口、生産年齢人口割合が減少していく中、老年人口の割合の増加とともに、高齢化は加速しており、令和22年（2040年）で39.1%の見込みになっています。

《横須賀市》将来推計人口の推計および年齢区分別構成比



資料：横須賀市住民基本台帳「見える化システム」

(3) 平均寿命の推移

令和4年簡易生命表によると、男性の平均寿命は81.05年、女性の平均寿命は87.09年となっています。また、平均寿命は男女ともに昭和30年（1955年）以降増加傾向にあり、昭和30年から男性は17.45年、女性は19.34年延伸しています。

平均寿命の男女差は、6.03年で前年より0.07年縮小しています。

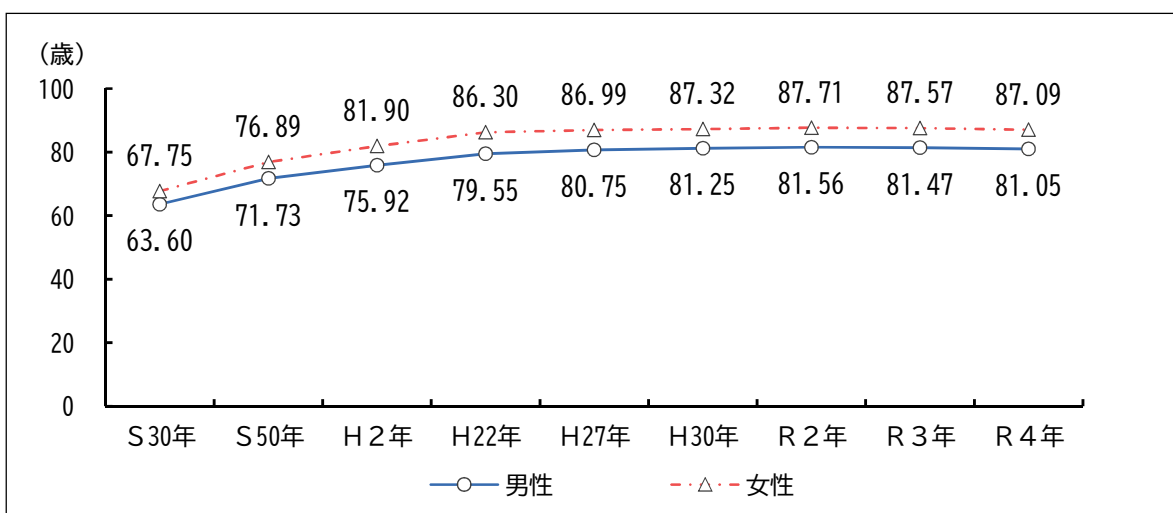
《国》平均寿命の年次推移（男女別）

単位：歳

区分	S 30 年	S 50 年	H 2 年	H22 年	H27 年	H30 年	R 2 年	R 3 年	R 4 年
男性	63.60	71.73	75.92	79.55	80.75	81.25	81.56	81.47	81.05
女性	67.75	76.89	81.90	86.30	86.99	87.32	87.71	87.57	87.09

資料：厚生労働省「令和4年簡易生命表」より作成

《国》平均寿命の年次推移（男女別）



資料：厚生労働省「令和4年簡易生命表」より作成

(4) 死亡率の推移

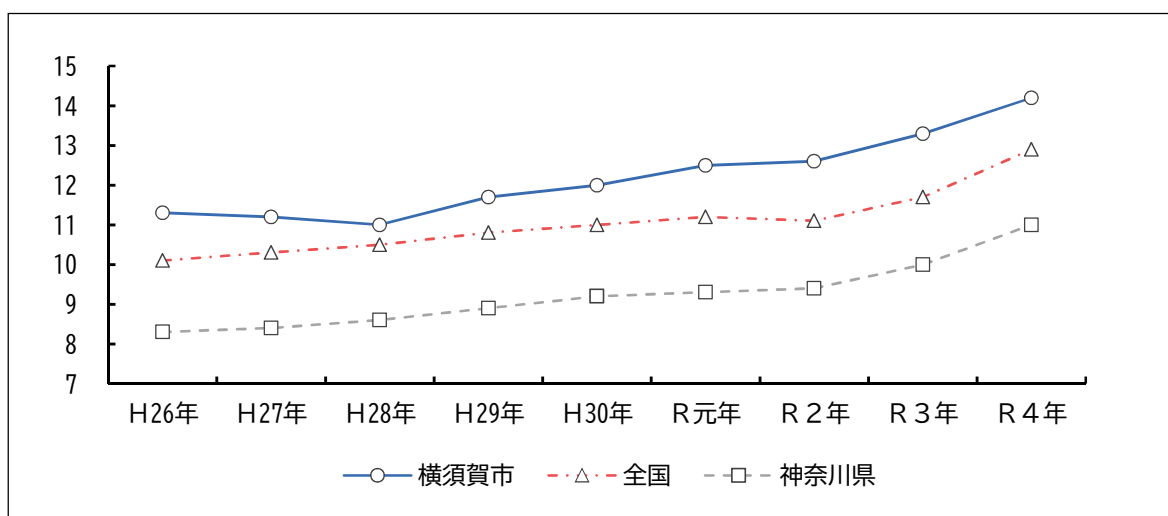
横須賀市の死亡率は、平成28年（2016年）以降増加傾向にあり、どの年においても国・県と比べて高くなっています。横須賀市は高齢人口の比率が高く、令和2年（2020年）には市の65歳以上人口が30%を超え、国の28.7%、県の25.6%と比較しても高くなっていることも死亡率の高さに影響していると考えられます。

《国・県・横須賀市》死亡率（人口千対）の年次推移

年次	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
全国	10.1	10.3	10.5	10.8	11.0	11.2	11.1	11.7	12.9
神奈川県	8.3	8.4	8.6	8.9	9.2	9.3	9.4	10.0	11.0
横須賀市	11.3	11.2	11.0	11.7	12.0	12.5	12.6	13.3	14.2

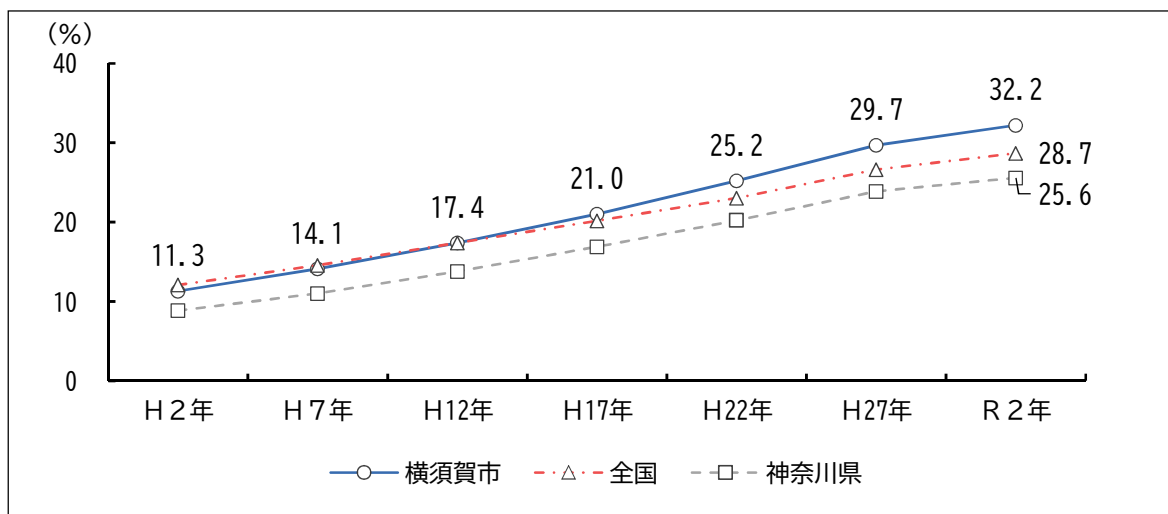
資料：横須賀市民生局健康部「衛生年報」

《国・県・横須賀市》死亡率（人口千対）の年次推移



資料：横須賀市民生局健康部「衛生年報」

《国・県・横須賀市》高齢化率の年次推移



資料：国勢調査

2 横須賀市のがんを取り巻く現状

(1) 死因順位別死亡数および死亡率

がんは、昭和56年(1981年)以降、我が国の死因の第1位となり、令和4年(2022年)には38万5,797人が亡くなっています。

横須賀市においては、昭和52年(1977年)に、それまで死因の第1位であった脳血管疾患※¹から、がんが第1位となって現在に至り、令和4年(2022年)には、がんによる死亡者が1,326人で死因全体の24.6%を占め、第2位の心疾患の15.1%を大きく上回っています。

《国・横須賀市》死因順位(第10位まで)別死亡数および死亡率(人口10万対)・構成割合

国(令和4年)					横須賀市(令和4年)				
死因順位	死因	死亡数(人)	死亡率	死亡割合(%)	死因順位	死因	死亡数(人)	死亡率	死亡割合(%)
全死因		1,569,050	1285.8	100.0	全死因		5,382	1417.1	100.0
1	悪性新生物(腫瘍)	385,797	316.1	24.6	1	悪性新生物(腫瘍)	1,326	349.1	24.6
2	心疾患 (高血圧性を除く)	232,964	190.9	14.8	2	心疾患 (高血圧性を除く)	814	214.3	15.1
3	老衰	179,529	147.1	11.4	3	老衰	779	205.1	14.5
4	脳血管疾患	107,481	88.1	6.9	4	脳血管疾患	308	81.1	5.7
5	肺炎	74,013	60.7	4.7	5	誤嚥性肺炎	196	51.6	3.6
6	誤嚥性肺炎	56,069	45.9	3.6	6	肺炎	185	48.7	3.4
7	不慮の事故	43,420	35.6	2.8	7	不慮の事故	132	34.8	2.5
8	腎不全	30,739	25.2	2.0	8	アルツハイマー病	103	27.1	1.9
9	アルツハイマー病	24,860	20.4	1.6	9	間質性肺疾患	101	26.6	1.9
10	血管性等の認知症※ ²	24,360	20.0	1.6	10	腎不全	100	26.3	1.9

資料：厚生労働省「令和4年(2022年)人口動態統計(確定数)の概況」、横須賀市民生局健康部「衛生年報」より作成

※1 昭和47年(1972年)は、がんが死因の第1位です。

※2 「血管性等の認知症」は「血管性及び詳細不明の認知症」である。

(2) 横須賀市主要死因別死亡率の年次推移

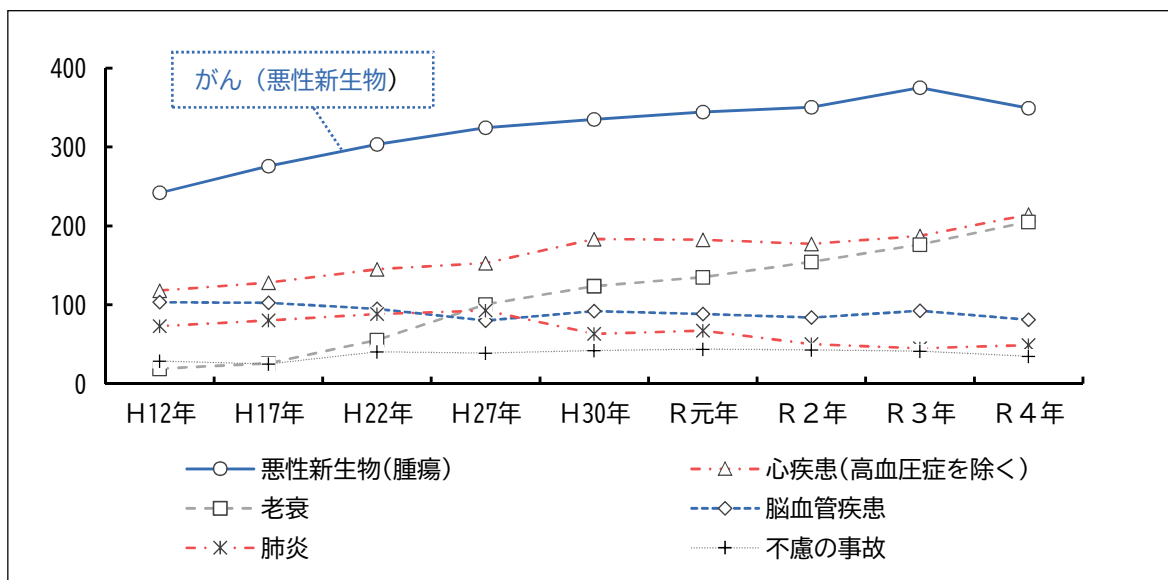
主要死因別死亡率においても、過去から現在において、がんによる死因は他の死因を大きく上回っています。

《横須賀市》主要死因別死亡率の年次推移（人口 10 万対）

年次	H12年	H17年	H22年	H27年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
悪性新生物(腫瘍)	241.9	275.7	303.4	324.3	335.0	344.3	350.3	375.2	349.1
心疾患 (高血圧症を除く)	118.0	128.1	144.9	152.7	183.3	182.3	177.1	187.4	214.3
老 衰	18.9	25.8	55.5	100.6	123.5	135.1	154.4	176.3	205.1
脳血管疾患	103.1	102.3	94.7	79.9	92.0	88.1	83.7	92.3	81.1
肺 炎	73.0	80.0	88.2	92.7	62.9	67.0	49.9	44.7	48.7
不慮の事故	28.5	24.9	40.4	38.9	42.0	43.7	42.7	41.3	34.8

資料：横須賀市民生局健康部「衛生年報」より作成

《横須賀市》主要死因別死亡率の年次推移（人口 10 万対）



資料：横須賀市民生局健康部「衛生年報」より作成

(3) 主要部位別がん死亡数 国・横須賀市男女別比較

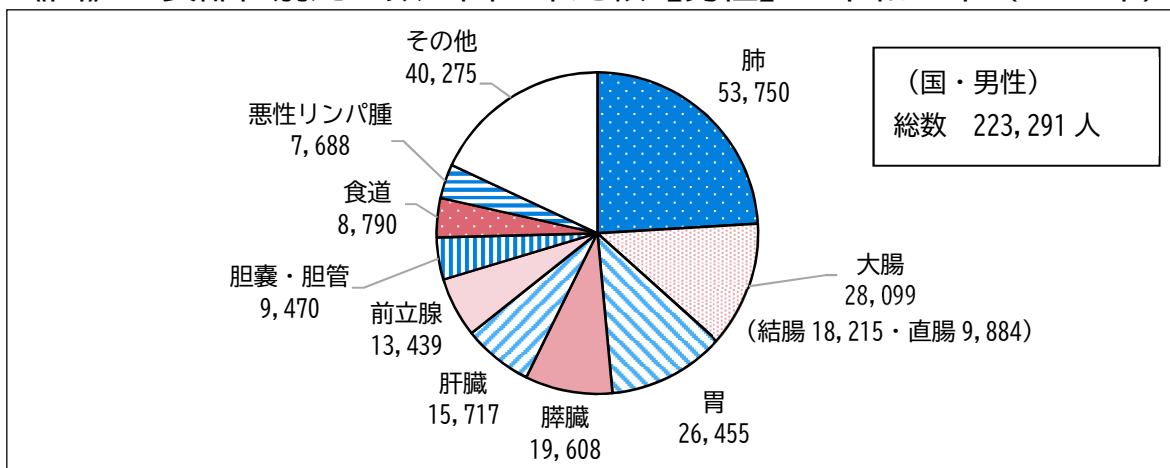
部位別がん死亡数では、国、横須賀市ともに男性では肺がんが多く、続いて結腸・直腸を合計した大腸がん、胃がんとなります。女性では国、横須賀市ともに大腸がんが1位になります。

《国・横須賀市》主要部位別死亡数 国・市比較 令和4年（2022年）

区分		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	大腸を結腸と直腸に分けた場合
国	男女計	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓	結腸4位、直腸7位
	男性	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓	結腸4位、直腸7位
	女性	大腸	肺	膵臓	乳房	胃	結腸3位、直腸10位
横須賀市	男女計	肺	大腸	胃	膵臓	胆嚢・胆管	結腸4位、直腸8位
	男性	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓	結腸4位、直腸10位
	女性	大腸	乳房	肺	膵臓	胃	結腸2位、直腸8位

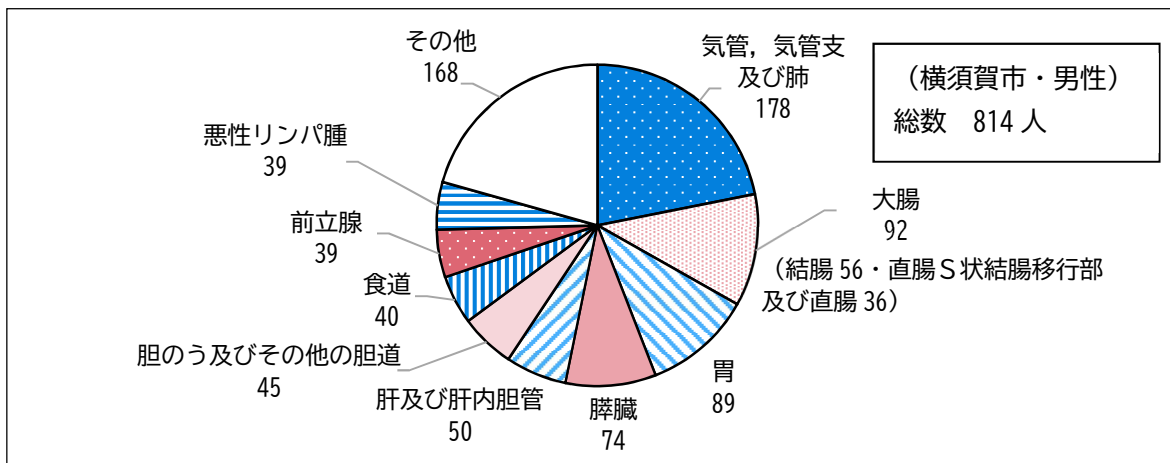
資料：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（厚生労働省人口動態統計）、横須賀市民生局健康部「衛生年報」より作成

《国》主要部位別死亡数 国・市比較【男性】 令和4年（2022年）



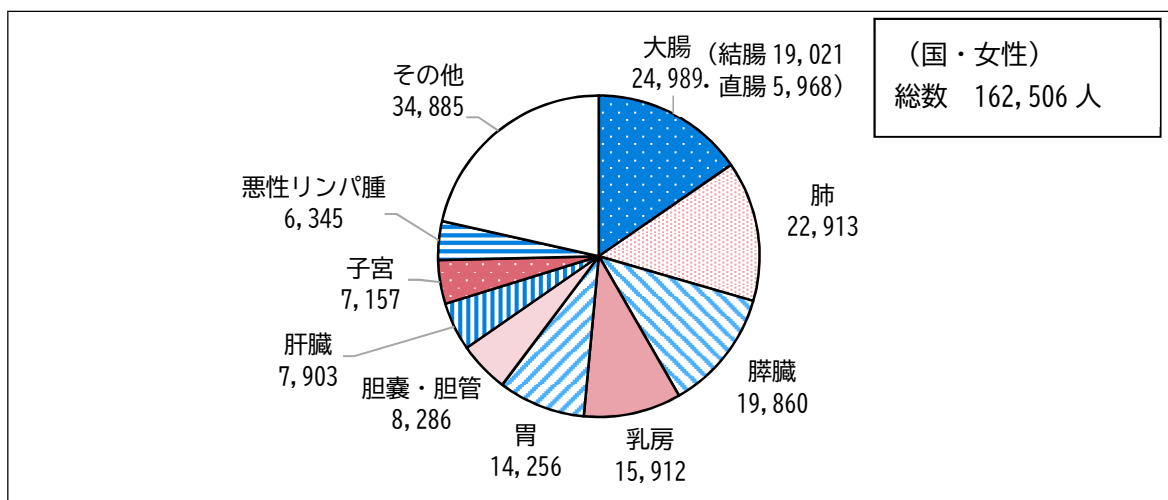
資料：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（厚生労働省人口動態統計）より作成

《横須賀市》主要部位別死亡数 国・市比較【男性】 令和4年（2022年）



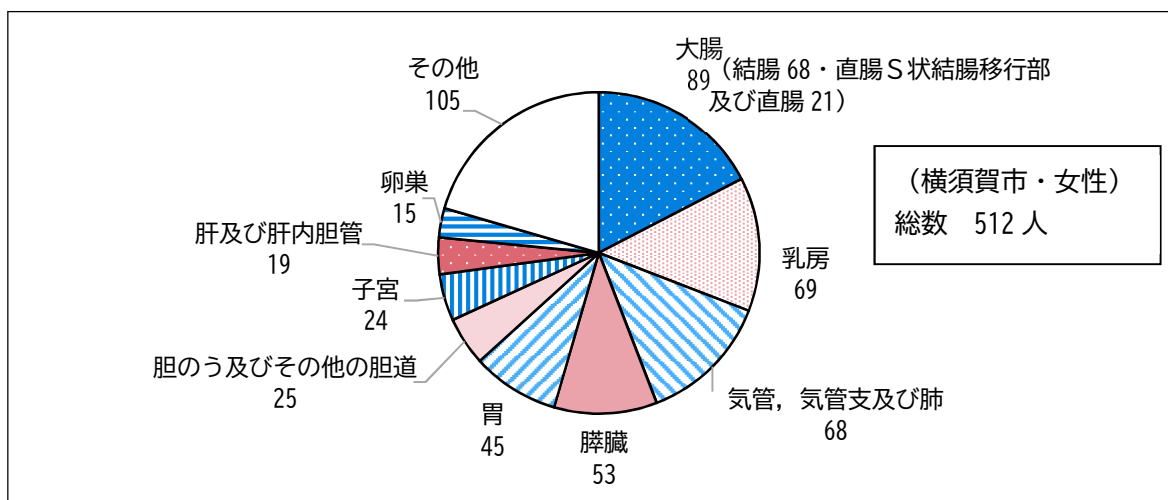
資料：横須賀市民生局健康部「衛生年報」より作成

《国》主要部位別死亡数 国・市比較〔女性〕 令和4年（2022年）



資料：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（厚生労働省人口動態統計）より作成

《横須賀市》主要部位別死亡数 国・市比較〔女性〕 令和4年（2022年）



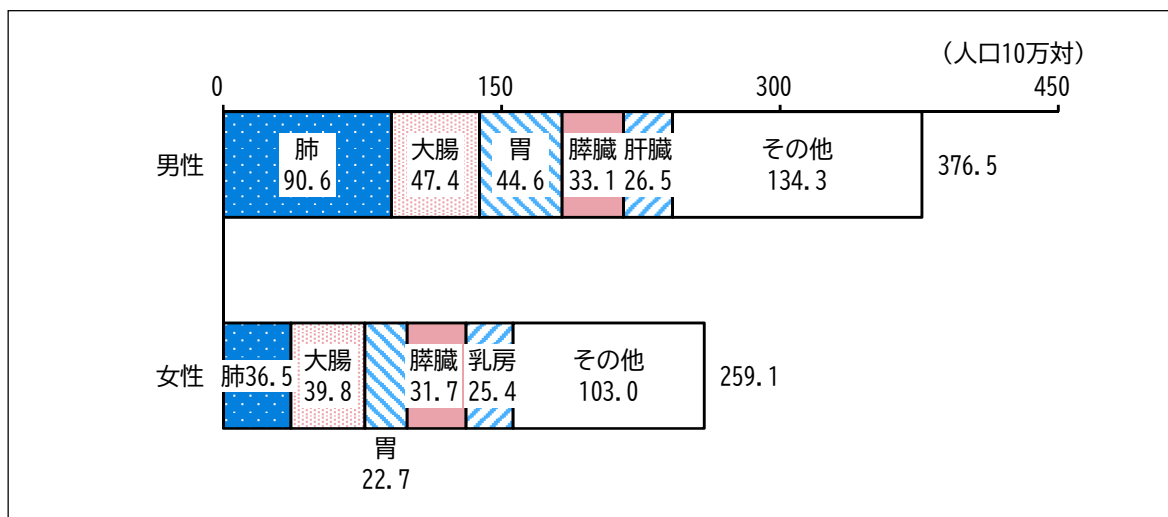
資料：横須賀市民生局健康部「衛生年報」より作成

(4) 主要部位別がん死亡率 国・横須賀市男女別比較

横須賀市の主要部位別がん死亡率を国と比較すると、男性では肺がん、大腸がん、胃がん、膵臓がんが高くなっており、女性では大腸がん、胃がん、乳がんが高くなっています。

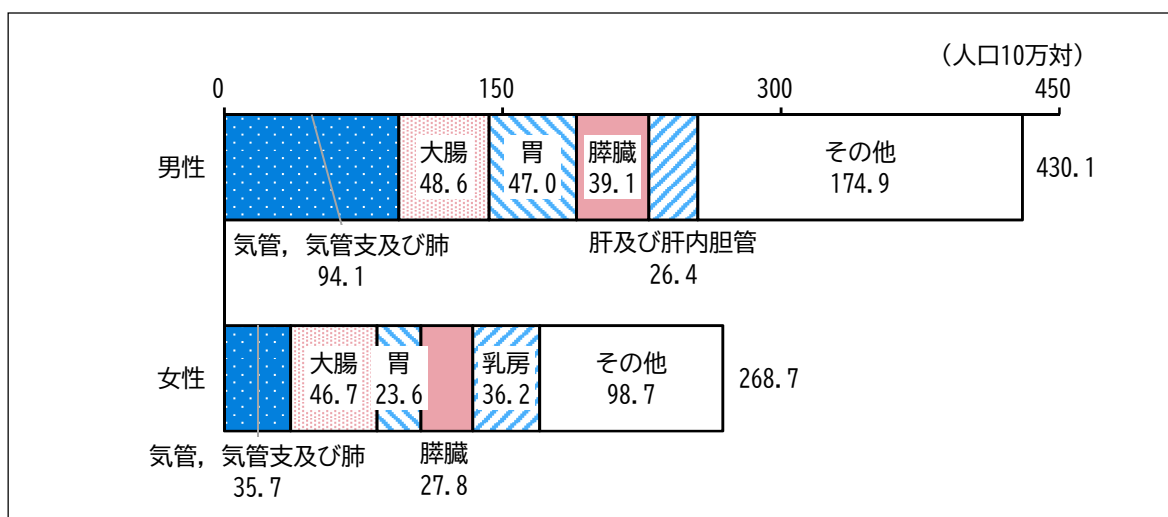
また、国、横須賀市ともに男性が女性を上回っており、特に横須賀市の男性の死亡率が全体的に高くなっています。

《国》主要部位別死亡率男女別比較 令和4年（2022年）



資料：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（厚生労働省人口動態統計）より作成

《横須賀市》主要部位別死亡率男女別比較 令和4年（2022年）



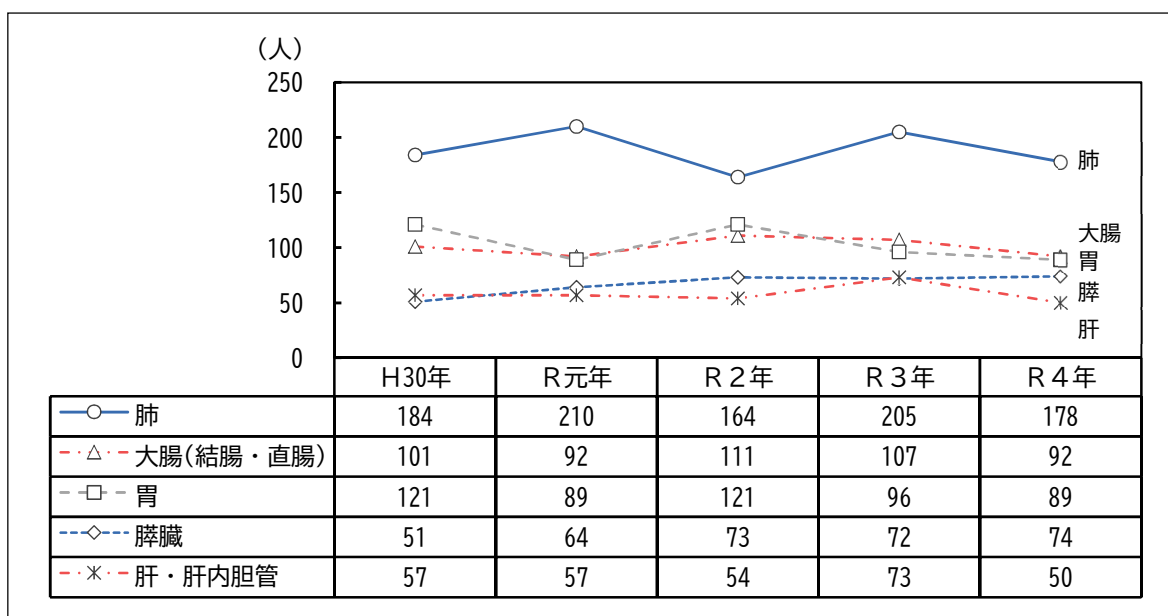
資料：横須賀市民生局健康部「衛生年報」より作成

(5) 横須賀市主要部位別男女別死亡数 5年推移

平成30年度（2018年度）から令和4年度（2022年度）までの5年間の推移では、男性の1位は、5年とも肺がんです。大腸がん、胃がんは年により順位の変動がありますが、いずれも2位、3位と上位となっています。

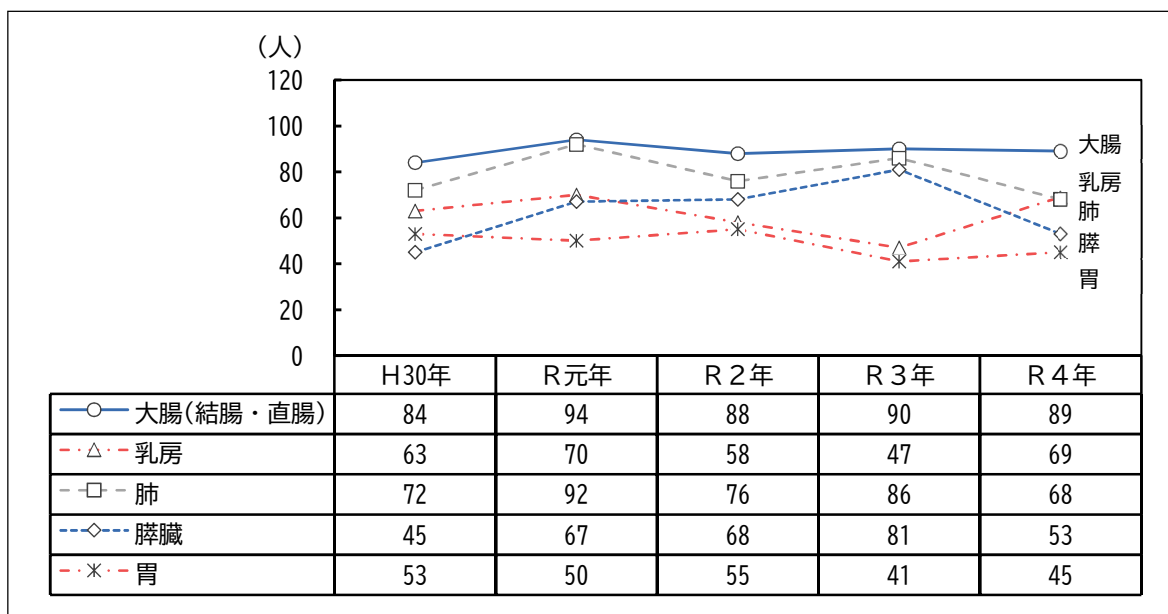
女性では、第1位が大腸がんとなり、女性特有の乳がんは年により順位の変動がありますが、2位～4位で推移しています。

《横須賀市》がん種上位5位死亡数 5年推移【男性】



資料：横須賀市民生局健康部「衛生年報」より作成

《横須賀市》がん種上位5位死亡数 5年推移【女性】



資料：横須賀市民生局健康部「衛生年報」より作成

(6) 国・横須賀市 がんり患数国・横須賀市男女別比較

がんり患数を国と横須賀市で比較すると、男性の第1位は、国では前立腺がん、横須賀市では大腸がんとなり、第2位は国では大腸がん、横須賀市では肺がん、第3位が国では肺がん、横須賀市では前立腺がんとなっています。

女性では、国、横須賀市とも第1位が乳がん、第2位が大腸がん（結腸・直腸）、第3位が肺がんとなっています。

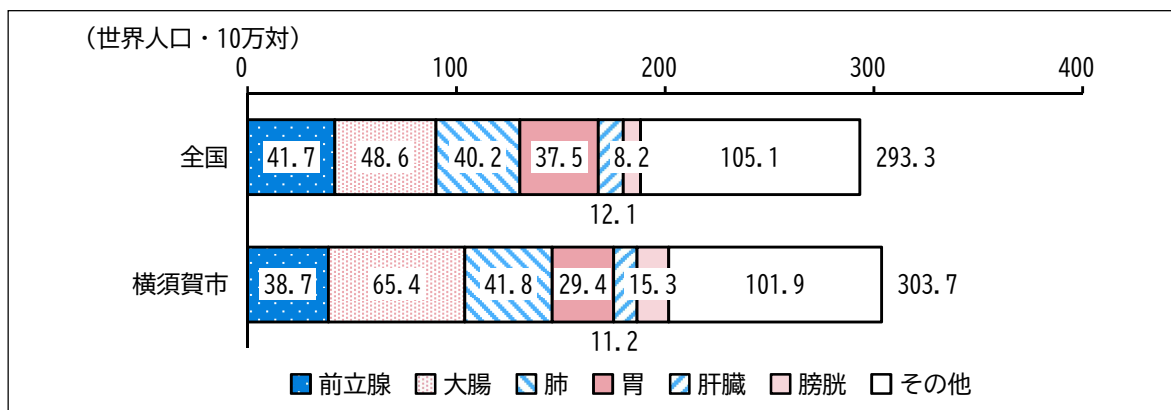
がんり患率を国と横須賀市で比較すると、横須賀市は男性の大腸がん、女性の乳がんのり患率が高くなっています。

《国・横須賀市》がんり患数国・横須賀市男女別比較 令和2年（2020年）

区分	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性	国 前立腺	大腸	肺	胃	肝臓
横須賀市	大腸	肺	前立腺	胃	膀胱
女性	国 乳房	大腸	肺	胃	子宮
横須賀市	乳房	大腸	肺	子宮	胃

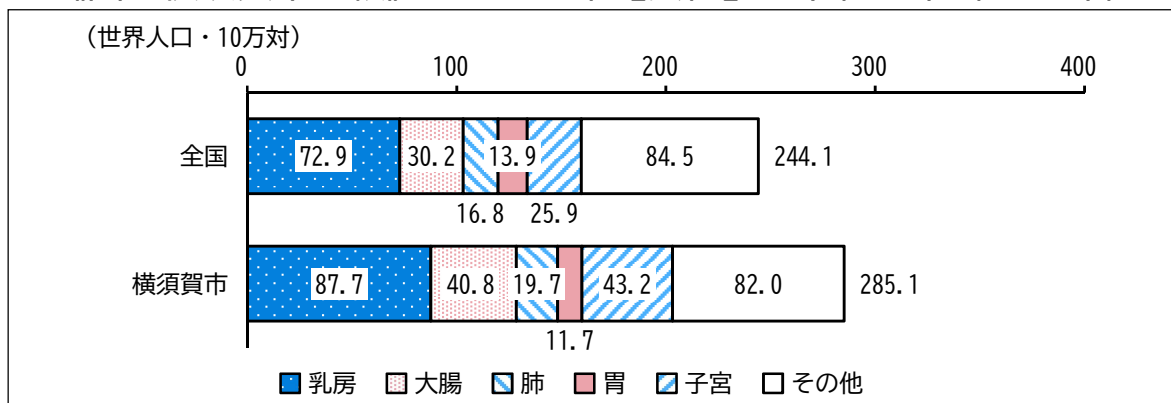
資料：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）、神奈川県悪性新生物登録事業年報（令和6年）より作成

《国・横須賀市比較》がんり患率【男性】 令和2年（2020年）



資料：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）、神奈川県悪性新生物登録事業年報（令和6年）より作成

《国・横須賀市比較》がんり患率【女性】 令和2年（2020年）



資料：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）、神奈川県悪性新生物登録事業年報（令和6年）より作成

※ 年齢構成の異なる国と市のり患状況の比較のため、年齢調整り患率（世界人口）で比較しました。

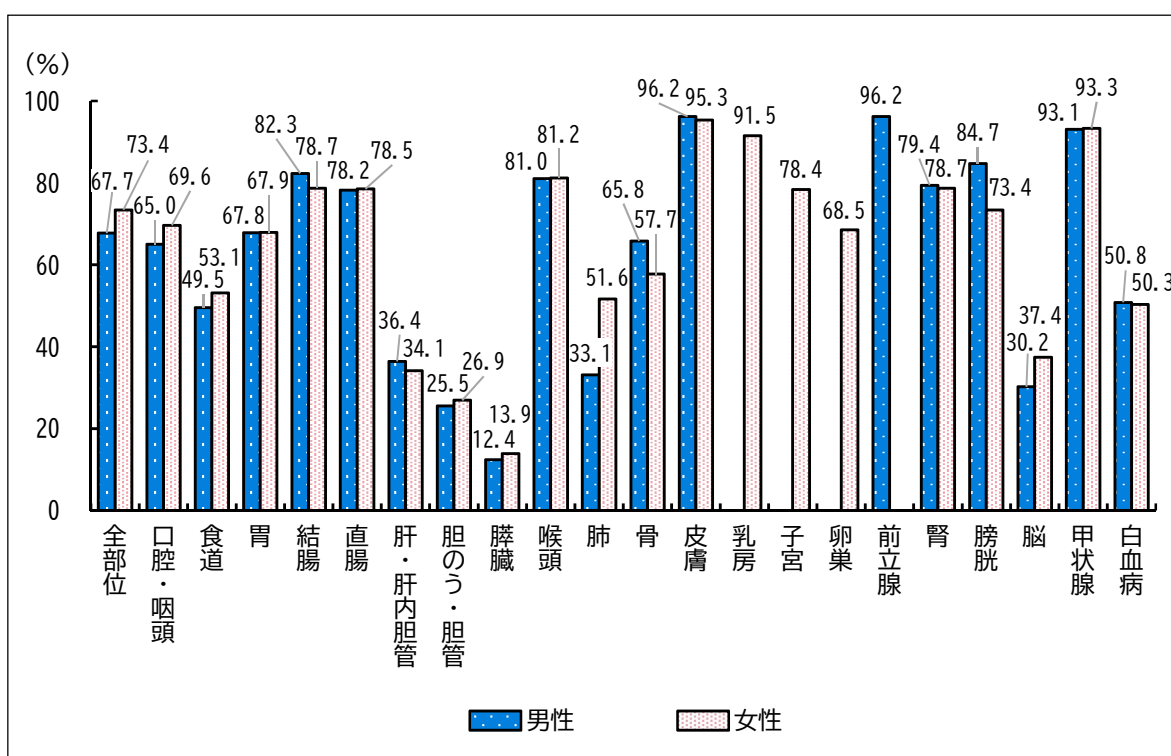
(7) 神奈川県のがんの生存率の状況

神奈川県における、平成28年（2016年）にがんと診断された患者の5年相対生存率では、全部位の生存率は男性が67.7%、女性が73.4%となっています。

り患率の高い部位別では、男性の場合は、前立腺がん（96.2%）が高く、女性の場合は、乳がん（91.5%）が高くなっています。

また、胆のう・胆管がん（男性25.5%、女性26.9%）、膵臓がん（男性12.4%、女性13.9%）は、男女ともに低くなっています。

《神奈川県》部位別5年相対生存率 平成28年（2016年）

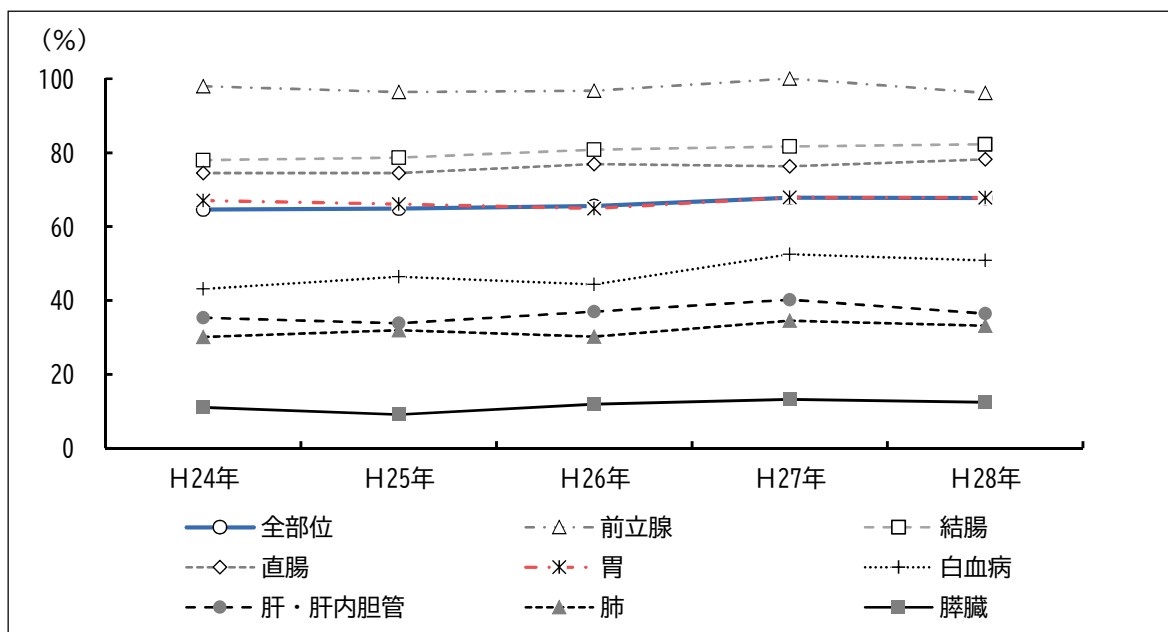


資料：神奈川県悪性新生物登録事業年報（令和6年）より作成

また、平成24年（2010年）から平成28年（2016年）までの主な部位の5年相対生存率の推移は下図のとおりで、全部位では男性が64.6%から67.7%、女性が71.2%から73.4%とほぼ横ばいで推移しています。

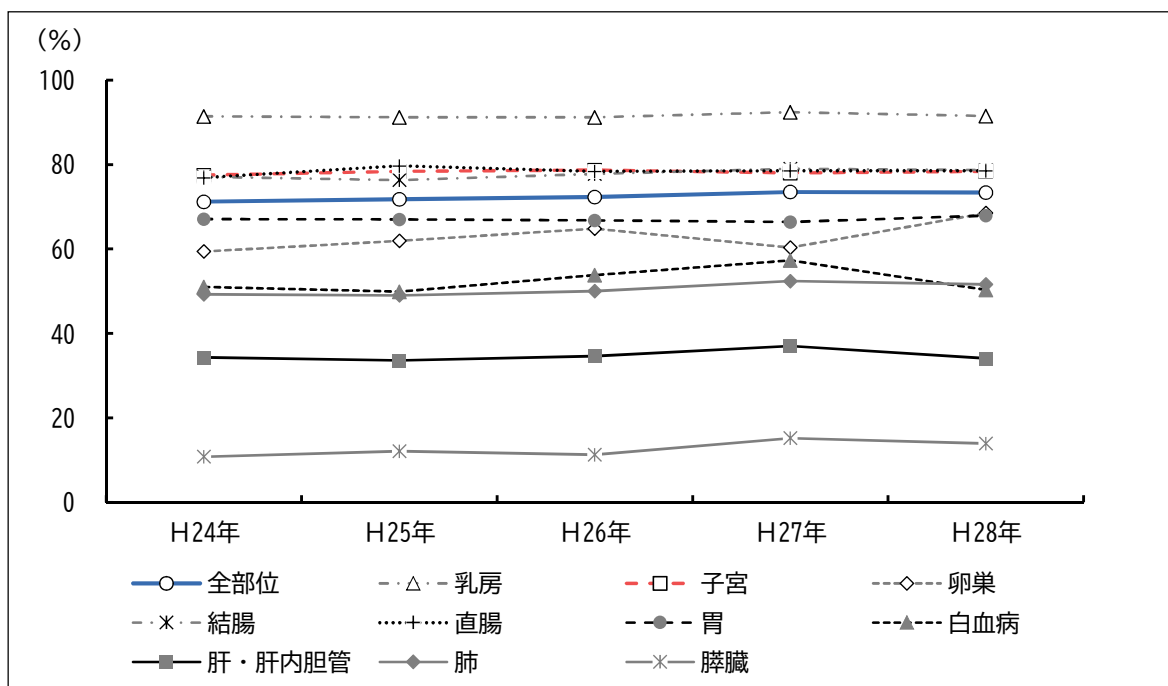
部位別では、男性では白血病、女性では卵巣がんの生存率が上昇しています。

《神奈川県》部位別5年相対生存率の推移【男性】



資料：神奈川県悪性新生物登録事業年報（令和6年）より作成

《神奈川県》部位別5年相対生存率の推移【女性】



資料：神奈川県悪性新生物登録事業年報（令和6年）より作成

2 アンケート調査結果からみた現状

(1) 調査の概要

① 調査の目的

令和6年度（2024年度）に当該計画期間が満了することから、当該計画の評価及び次期横須賀市がん対策推進計画策定の基礎資料とするため、市民のがん（がん検診、がんに対する知識等）に関する意識について調査を行うことといたしました。

② 調査対象

横須賀市にお住まいの20歳以上84歳以下の方2,000人を無作為抽出

③ 調査期間

令和6年（2024年）1月30日から令和6年（2024年）3月1日

④ 調査方法

郵送による配布・回収及びWEBによる回答

⑤ 回収状況

	配 布 数	有効回答数	有効回答率
がん対策	2,000 通	552 通	27.6%

⑥ 調査結果の表示方法

- ・ 回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・ クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

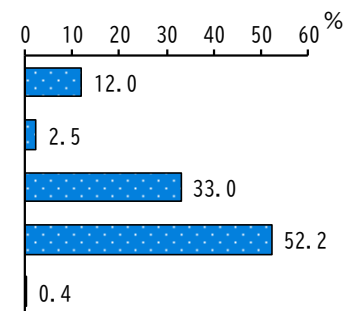
(2) がんの予防について

① 喫煙の状況（単数回答）

「喫煙したことがない」の割合が 52.2% と最も高く、次いで「喫煙していたが、今は吸っていない」の割合が 33.0%、「日常的に喫煙している」の割合が 12.0%となっています。

回答者数 = 552

日常的に喫煙している
日常的に喫煙していないが、たまに吸う
喫煙していたが、今は吸っていない
喫煙したことがない
無回答



【性・年齢別】

性・年齢別にみると、男性60歳～69歳で「喫煙していたが、今は吸っていない」の割合が高くなっています。

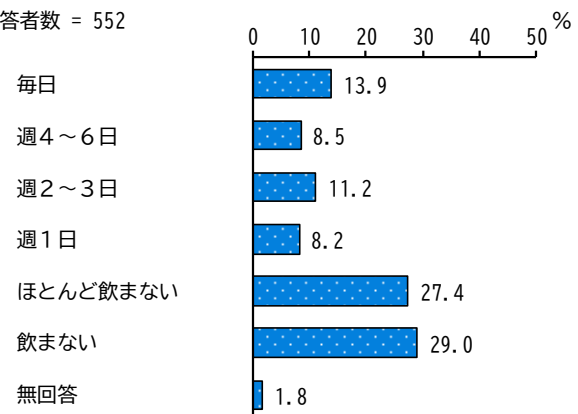
単位：%

区分	回答者数(件)	日常的に喫煙している	日常的に喫煙していないが、たまに吸う	喫煙していたが、今は吸っていない	喫煙したことがない	無回答
全 体	552	12.0	2.5	33.0	52.2	0.4
男性 20 歳～29 歳	12	8.3	16.7	8.3	66.7	—
男性 30 歳～39 歳	22	13.6	4.5	—	81.8	—
男性 40 歳～49 歳	21	28.6	4.8	47.6	19.0	—
男性 50 歳～59 歳	30	23.3	—	50.0	26.7	—
男性 60 歳～69 歳	46	8.7	2.2	69.6	17.4	2.2
男性 70 歳以上	102	13.7	2.9	56.9	26.5	—
女性 20 歳～29 歳	32	9.4	15.6	6.3	68.8	—
女性 30 歳～39 歳	41	7.3	—	22.0	70.7	—
女性 40 歳～49 歳	41	19.5	—	24.4	56.1	—
女性 50 歳～59 歳	44	11.4	—	25.0	63.6	—
女性 60 歳～69 歳	47	8.5	—	21.3	70.2	—
女性 70 歳以上	99	5.1	1.0	17.2	75.8	1.0

資料：「横須賀市がん対策推進計画」の策定にかかる市民アンケート調査（令和6年）

② 飲酒の状況（単数回答）

「飲まない」の割合が 29.0%と最も高く、回答者数 = 552
次いで「ほとんど飲まない」の割合が 27.4%、「毎日」の割合が 13.9%となっています。



【性・年齢別】

性・年齢別にみると、女性70歳以上で「飲まない」の割合が高くなっています。

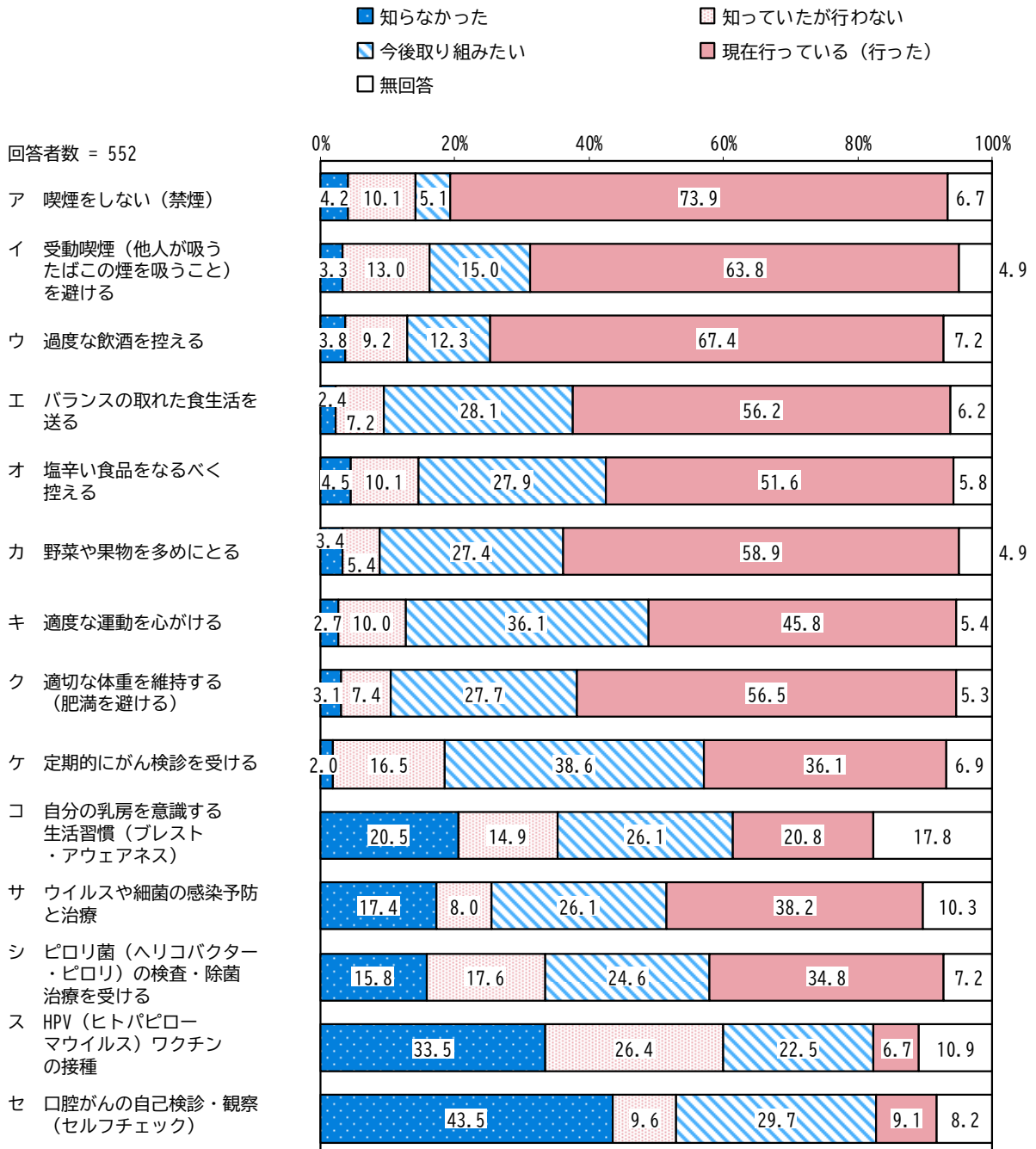
単位：％

区分	回答者数 (件)	毎日	週 4 ～ 6 日	週 2 ～ 3 日	週 1 日	ほと んど 飲 ま ない	飲 ま ない	無 回 答
全 体	552	13.9	8.5	11.2	8.2	27.4	29.0	1.8
男性 20 歳～29 歳	12	—	—	33.3	25.0	33.3	8.3	—
男性 30 歳～39 歳	22	—	4.5	27.3	13.6	40.9	13.6	—
男性 40 歳～49 歳	21	14.3	19.0	9.5	9.5	23.8	23.8	—
男性 50 歳～59 歳	30	13.3	20.0	10.0	10.0	16.7	30.0	—
男性 60 歳～69 歳	46	30.4	13.0	19.6	8.7	13.0	13.0	2.2
男性 70 歳以上	102	30.4	9.8	12.7	6.9	20.6	16.7	2.9
女性 20 歳～29 歳	32	—	9.4	9.4	9.4	53.1	18.8	—
女性 30 歳～39 歳	41	4.9	7.3	9.8	7.3	36.6	34.1	—
女性 40 歳～49 歳	41	17.1	—	7.3	2.4	39.0	31.7	2.4
女性 50 歳～59 歳	44	6.8	2.3	9.1	6.8	40.9	31.8	2.3
女性 60 歳～69 歳	47	10.6	10.6	8.5	12.8	31.9	25.5	—
女性 70 歳以上	99	5.1	3.0	7.1	6.1	17.2	58.6	3.0

資料：「横須賀市がん対策推進計画」の策定にかかる市民アンケート調査（令和6年）

③ がんの予防につながる行動について（単数回答）

『セ 口腔がんの自己検診・観察（セルフチェック）』で「知らなかった」の割合が、『ケ 定期的ながん検診を受ける』で「今後取り組みたい」の割合が高くなっています。また、『ア 喫煙をしない（禁煙）』で「現在行っている（行った）」の割合が高くなっています。



資料：「横須賀市がん対策推進計画」の策定にかかる市民アンケート調査（令和6年）

④ がんの予防につながる行動－野菜や果物を多めにとる

【性・年齢別】

性・年齢別にみると、女性60歳～69歳で「現在行っている（行った）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	知らなかった	知っていたが行わない	今後取り組みたい	現在行っている (行った)	無回答
全 体	552	3.4	5.4	27.4	58.9	4.9
男性 20 歳～29 歳	12	8.3	8.3	25.0	58.3	—
男性 30 歳～39 歳	22	9.1	13.6	27.3	50.0	—
男性 40 歳～49 歳	21	—	14.3	47.6	33.3	4.8
男性 50 歳～59 歳	30	6.7	10.0	40.0	43.3	—
男性 60 歳～69 歳	46	—	4.3	23.9	71.7	—
男性 70 歳以上	102	2.9	6.9	24.5	55.9	9.8
女性 20 歳～29 歳	32	12.5	3.1	34.4	50.0	—
女性 30 歳～39 歳	41	4.9	7.3	43.9	43.9	—
女性 40 歳～49 歳	41	4.9	2.4	41.5	48.8	2.4
女性 50 歳～59 歳	44	4.5	4.5	20.5	68.2	2.3
女性 60 歳～69 歳	47	2.1	2.1	14.9	80.9	—
女性 70 歳以上	99	—	2.0	20.2	65.7	12.1

資料：「横須賀市がん対策推進計画」の策定にかかる市民アンケート調査（令和6年）

⑤ がんの予防につながる行動－適度な運動を心がける

【性・年齢別】

性・年齢別にみると、女性20歳～29歳で「今後取り組みたい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	知らなかった	知っていたが行わない	今後取り組みたい	現在行っている (行った)	無回答
全 体	552	2.7	10.0	36.1	45.8	5.4
男性 20 歳～29 歳	12	—	—	41.7	58.3	—
男性 30 歳～39 歳	22	4.5	13.6	31.8	50.0	—
男性 40 歳～49 歳	21	—	9.5	33.3	52.4	4.8
男性 50 歳～59 歳	30	6.7	10.0	40.0	43.3	—
男性 60 歳～69 歳	46	—	8.7	37.0	50.0	4.3
男性 70 歳以上	102	2.0	8.8	24.5	53.9	10.8
女性 20 歳～29 歳	32	9.4	3.1	68.8	18.8	—
女性 30 歳～39 歳	41	2.4	14.6	53.7	29.3	—
女性 40 歳～49 歳	41	4.9	9.8	48.8	34.1	2.4
女性 50 歳～59 歳	44	2.3	11.4	38.6	43.2	4.5
女性 60 歳～69 歳	47	2.1	10.6	34.0	48.9	4.3
女性 70 歳以上	99	1.0	12.1	26.3	51.5	9.1

資料：「横須賀市がん対策推進計画」の策定にかかる市民アンケート調査（令和6年）

⑥ がんの予防につながる行動－適切な体重を維持する（肥満を避ける）

【性・年齢別】

性・年齢別にみると、男性20歳～29歳で「現在行っている（行った）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	知らなかった	知っていたが行わない	今後取り組みたい	現在行っている (行った)	無回答
全 体	552	3.1	7.4	27.7	56.5	5.3
男性 20 歳～29 歳	12	—	8.3	8.3	83.3	—
男性 30 歳～39 歳	22	9.1	4.5	36.4	50.0	—
男性 40 歳～49 歳	21	—	14.3	42.9	38.1	4.8
男性 50 歳～59 歳	30	10.0	13.3	36.7	36.7	3.3
男性 60 歳～69 歳	46	2.2	2.2	28.3	67.4	—
男性 70 歳以上	102	1.0	3.9	23.5	62.7	8.8
女性 20 歳～29 歳	32	6.3	3.1	18.8	68.8	3.1
女性 30 歳～39 歳	41	2.4	9.8	29.3	56.1	2.4
女性 40 歳～49 歳	41	9.8	9.8	39.0	36.6	4.9
女性 50 歳～59 歳	44	2.3	13.6	38.6	45.5	—
女性 60 歳～69 歳	47	2.1	10.6	25.5	59.6	2.1
女性 70 歳以上	99	1.0	3.0	22.2	62.6	11.1

資料：「横須賀市がん対策推進計画」の策定にかかる市民アンケート調査（令和6年）

(3) がん検診の受診について

① がん検診の受診意向（単数回答）

「費用助成があれば受診したい」の割合が 38.4%と最も高く、次いで「無料であれば受診したい」の割合が 32.4%、「全額自己負担でも受診したい・受診している」の割合が 13.2%となっています。

回答者数 = 552

費用助成があれば受診したい

無料であれば受診したい

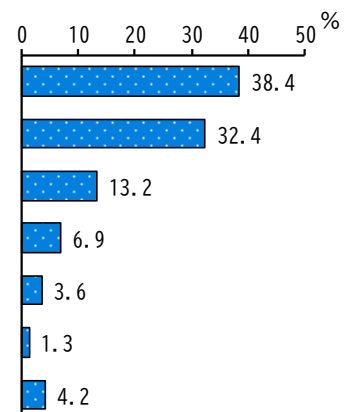
全額自己負担でも受診したい・受診している

あまり受診したくない

受診しない

その他

無回答



② 市のがん検診の認知度（単数回答）

「制度は知っているが、利用したことはない。」の割合が 40.4%と最も高く、次いで「知っており、制度を利用したことがある」の割合が 30.8%、「知らなかった」の割合が 25.2%となっています。

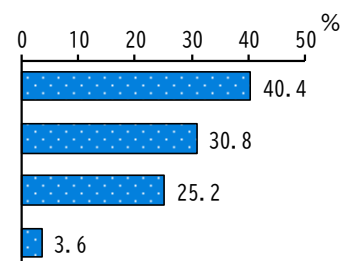
回答者数 = 552

制度は知っているが、利用したことはない。

知っており、制度を利用したことがある

知らなかった

無回答



資料：「横須賀市がん対策推進計画」の策定にかかる市民アンケート調査（令和6年）

(4) がん患者等への支援について

① がんにかかっても働き続けられるか（単数回答）

「働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人がいる」の割合が 21.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 20.7%、「現在働いていない・がんが判明した時期働いていなかった」の割合が 17.4%となっています。

回答者数 = 552

働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人がいる

現在働いていない・がんが判明した時期働いていなかった

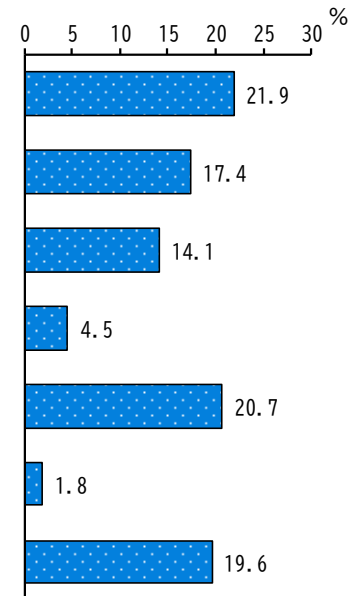
働き続けるのは難しいと思う

働き続けられる職場だと思うが、実際に働き続けている人はいない

わからない

その他

無回答



【医療職以外の方の職業別】

医療職以外の方の職業別にみると、自営業で「働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人がいる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人がいる	働き続けるのは難しいと思う	働き続けられる職場だと思うが、実際に働き続けている人はいない	わからない	現在働いていない・がんが判明した時期働いていなかった	その他	無回答
全 体	485	21.2	14.4	4.7	20.8	17.9	1.9	19.0
会社経営者・役員	7	28.6	14.3	28.6	14.3	—	14.3	—
自営業	16	50.0	6.3	—	25.0	—	—	18.8
会社員・公務員（正社員）	134	40.3	20.1	11.2	26.1	0.7	0.7	0.7
派遣職員	8	—	37.5	12.5	50.0	—	—	—
学生	12	16.7	16.7	—	25.0	41.7	—	—
フリーランス（自由業）	3	33.3	33.3	—	33.3	—	—	—
パート・アルバイト	85	28.2	28.2	4.7	30.6	2.4	2.4	3.5
専業主婦・主夫	71	5.6	4.2	—	8.5	39.4	1.4	40.8
無職	142	5.6	4.9	0.7	11.3	35.9	2.1	39.4
その他	7	—	14.3	—	71.4	—	14.3	—

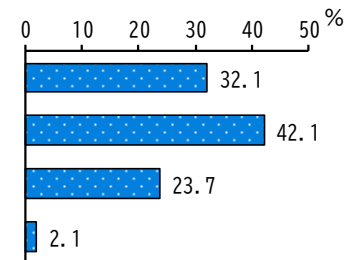
資料：「横須賀市がん対策推進計画」の策定にかかる市民アンケート調査（令和6年）

② 医療用ウィッグ（かつら）を使用したいか（単数回答）

「補助があれば使用したい」の割合が42.1%と最も高く、次いで「使用したい」の割合が32.1%、「使用したくない」の割合が23.7%となっています。

回答者数 = 430

使用したい
補助があれば使用したい
使用したくない
無回答

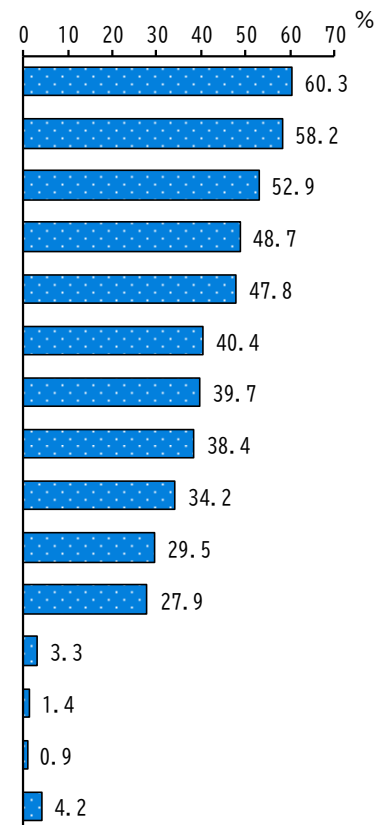


③ 抗がん剤治療を受ける場合、不安に思うこと（複数回答）

「医療費の負担」の割合が60.3%と最も高く、次いで「体力・体調」の割合が58.2%、「治療に対する漠然とした不安」の割合が52.9%となっています。

回答者数 = 552

医療費の負担
体力・体調
治療に対する漠然とした不安
日常生活
脱毛以外の抗がん剤の副作用
抗がん剤の副作用による脱毛
再発の不安
治療期間
家族の生活
収入の減少
仕事の継続・職場復帰
わからない
特に不安に思うことはない
その他
無回答

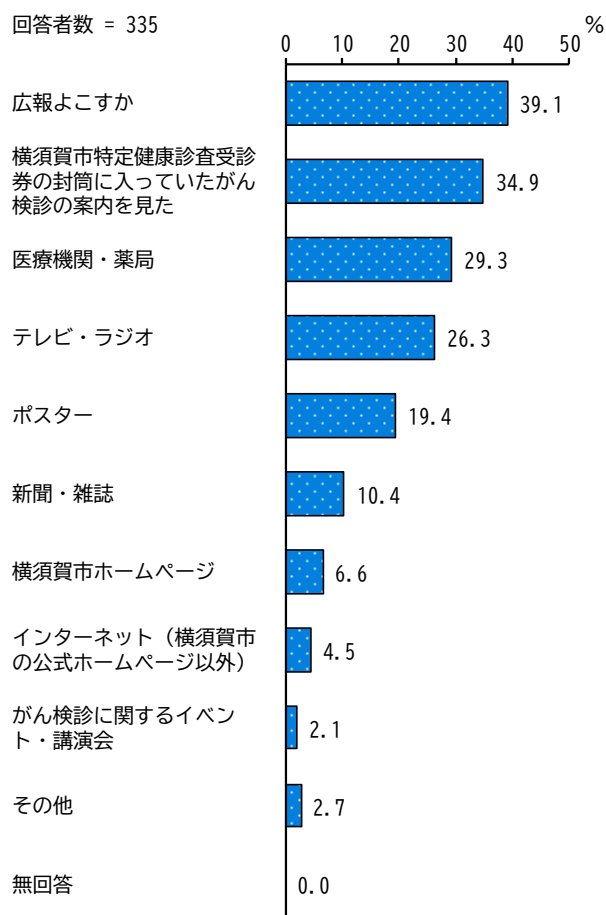


資料：「横須賀市がん対策推進計画」の策定にかかる市民アンケート調査（令和6年）

(5) 情報提供について

① がん検診の受診を勧める情報を見聞きした媒体（複数回答）

「広報よこすか」の割合が 39.1%と最も高く、次いで「横須賀市特定健康診査受診券の封筒に入っていたがん検診の案内を見た」の割合が 34.9%、「医療機関・薬局」の割合が 29.3%となっています。



資料：「横須賀市がん対策推進計画」の策定にかかる市民アンケート調査（令和6年）

